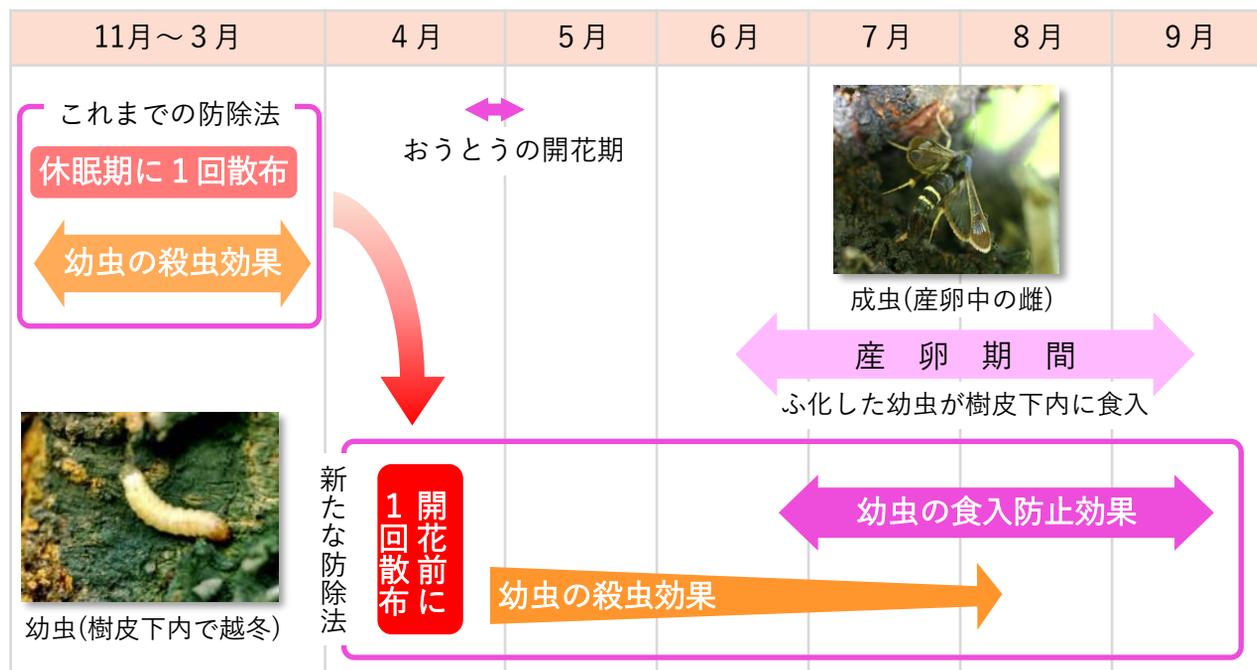


おうとうの枝幹害虫コスカシバの 開花前散布による防除法

コスカシバは蛾の仲間で、幼虫は樹皮下内に食入して樹を衰弱させ、枯死させる場合もあります。これまで、青森県では、コスカシバ対策の薬剤防除として休眠期散布を指導してきました。しかし、休眠期散布は他作物との作業の競合や、積雪等により実施が困難な場合があります。そこで、新たな防除法として開花前散布を検討したところ、高い防除効果が確認されたので紹介します。

開花前の防除法

- ◆ 開花前（4月中旬）にフェニックスフロアブル500倍液を樹幹部に、薬液が十分かかるように10aあたり200ℓを手散布します。



コスカシバに対するフェニックスフロアブルの開花前散布による防除効果

(平成30年 りんご研究所県南果樹部)

供試薬剤	希釈 倍数	調査 品種	調査 樹数	虫糞排出か所数 (合計)					蛹及び蛹殺数 (合計)				
				4/23	7/25	8/23	9/26	11/2	4/23	7/25	8/23	9/26	11/2
フェニックス フロアブル	500倍	佐藤錦	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		高砂	6	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0
無処理	-	佐藤錦	5	0	0	7	3	6	0	0	1	1	0
		高砂	6	0	0	12	0	19	0	0	3	1	1

注) 平成30年4月23日に動力噴霧機で樹幹に手散布

期待される効果

- ◆ 薬剤防除によるコスカシバ対策が実施しやすくなるため、被害の発生軽減が期待できます。
- ◆ ふ化幼虫の樹体への食入防止効果があるため、休眠期散布に比べて高い防除効果が期待できます。

お問い合わせ

りんご研究所県南果樹部 (Tel 0178-62-4111)

あおもりの未来、
技術でサポート